

世界をリードする基礎・臨床一体型の医学・医療を推進し、
質の高い医療人の育成と
患者さん中心の医療環境を築くために



1917年 医学科予科教室(三田山上)



1920年代 開院当時



1950年代 病院本館(木造)を臨む医学部全景



1965年 病院1号棟竣工時



2018年 病院1号館竣工時

2022年 病院グランドオープン



KEIO UNIVERSITY
HOSPITAL
100th ANNIVERSARY

■年表写真

前史

- 1 福澤諭吉先生
- 2 蘭学塾「適塾」
- 3 緒方洪庵
- 4 北里柴三郎博士
- 5 慶應義塾発祥の地
記念碑(東京・中央区)

確立

- 1 1920年大学病院
開院式
- 2 開院当時の病院全景
- 3 開院当時の病院
玄関内部
- 4 食養研究所
- 5 予防医学校舎

復興

- 1 醫學徒報國隊
- 2 武蔵野分校
- 3 病院本館(木造)を臨む
医学部全景
- 4 病院本館受付
- 5 病院本館玄関
- 6 医学部附属厚生
女子学院卒業式

充実

- 1 病院1号棟竣工時の全景
- 2 学生ストライキ
- 3 医学部創立50周年
記念式
- 4 本館臨床講堂
- 5 本館臨床講堂での
実習風景

継承

- 1 大学病院新棟開院
当時の病院全景
- 2 看護医療学部
(湘南藤沢キャンパス)
- 3 総合医科学研究棟
- 4 薬学部
(芝草立キャンパス)
- 5 病院3号館(南棟)
- 6 JSR・慶應義塾大学
医学化学イノベーション
センター(通称JKiC)
- 7 病院1号館

慶應義塾大学医学部
慶應義塾大学病院

〔編 集〕信濃町キャンパス総務課 03-5363-3611
〒160-8582東京都新宿区信濃町35
<http://www.med.keio.ac.jp>
<http://www.hosp.keio.ac.jp>

2023.4

慶應義塾大学医学部・病院 年表



世界に冠たる大学病院・総合医学府の構築を目指して



慶應義塾大学医学部
慶應義塾大学病院



贈 医

無限の輸贏 天また人

医師いうをやめよ 自然の臣なりと

離妻の明視と麻姑の手と

手段の達するの辺 ただ是れ真なり

福澤 諭吉



我等の新しき医科大学は、多年医界の
宿弊たる各科の分立を防ぎ、基礎医学と
臨床医学の連繫を緊密にし、学内は融合
して家族の如く、全員挙つて斯学の研鑽
に努力するを以って特色としたい。

北里 柴三郎



慶應義塾大学医学部・病院 年表

1835-1901

前史
緒方洪庵、福澤諭吉、
そして北里柴三郎へ

- 1835年 福澤諭吉先生、大阪中津藩蔵屋敷で誕生
- 1855年 福澤諭吉先生、緒方洪庵の通塾に入門
- 1858年 慶應義塾開塾 江戸築地鉄砲洲に蘭学塾を開く
- 1860年 福澤諭吉先生、はじめての外遊 咸臨丸で渡米
- 1862年 福澤諭吉先生、遣欧使節として欧州各国を巡歴
- 1873年 慶應義塾と命名
- 1871年 慶應義塾三田に移転
- 1873年 三田山上に「慶應義塾医学所」設立（1880年）
- 1892年 北里柴三郎博士を所長とする伝染病研究所設立
- 1890年 北里柴三郎博士、土筆ヶ岡養生園設立
- 1901年 2月3日 福澤諭吉先生逝去

1917-1941

医学部の設立と
「慶應医学」の確立

- 1917年 慶應義塾大学部医学部開設
- 1918年 4月 医学部開校と同時に大学病院開院式
- 1919年 11月、四谷区西信濃町の陸軍用地を購入
- 1920年 医学部付属看護婦養成所開設
- 1922年 文学・経済学・法学・医学の4学部からなる総合大学へ
- 1923年 11月6日 慶應医学部第1回開校式開催
- 1924年 翌大正10（1921）年「慶應医学」創刊
- 1926年 医学部付属産婆養成所開設
- 1928年 関東大震災
- 1929年 大学病院特別棟竣工
- 1930年 食養研究所設立（1990年）
- 1932年 多磨墓地に医学研究に付せられた遺体を葬り冥福を祈るための緒方室建設
- 1933年 第1回の解剖実習供養法会を、増上寺で開催
- 1934年 マックラー「財団」寄付により、予防医学校舎竣工
- 1936年 新赤倉温泉の地に三田会、赤倉山荘建設
- 1937年 昭和6（1931）年焼失、平成6（1994）年再建
- 1939年 病院別棟竣工（鉄筋コンクリート地下1階地上4階建、219病床）
- 1941年 福澤先生誕生100年をに日吉開校記念祝賀会開催

1944-1963

戦災と復興

- 1944年 基礎医学教室 武蔵野分校移転（1956年春）
- 1945年 病院本館竣工 戦後最大の木造建築2階建、153病床
- 1946年 千代田大学に教授を招聘、CPC 臨床病理症例検討会開始
- 1948年 電子顕微鏡研究室開設
- 1950年 医学部附属厚生女子学院開設
- 1952年 新制大学医学部発足
- 1953年 「The Keio Journal of Medicine」創刊
- 1954年 北里柴三郎博士誕生100年
- 1955年 三田会より第1回北里賞授与
- 1956年 進学課程2年、専門課程4年の戦後教育体系確立
- 1958年 慶應義塾創立100年記念式典
- 1959年 米田チャイナメディカルボドの寄付を受け、基礎医学第1校舎竣工
- 1960年 病院中央棟竣工
- 1961年 慶應義塾創立100年記念式典
- 1962年 「財団法人慶應健康相談センター」発足（2008年）
- 1963年 「財団法人慶應がんセンター」発足（2002年）

1965-1984

教育・研究・診療の
充実への模索

- 1965年 病院1号棟竣工
- 1966年 「財団法人慶應がんセンター」発足（2002年）
- 1967年 医学部創立50周年記念式
- 1969年 「医学部改革委員会」設置
- 1970年 臨床講堂竣工
- 1971年 「慶應義塾大学伊勢慶應病院を開院（2003年）
- 1972年 三重県伊勢市の病院の寄付を受け、
- 1973年 慶應義塾大学伊勢慶應病院を開院（2003年）
- 1974年 月が瀬リベリテーション・センター開設（2011年）
- 1975年 医学部共同利用R.I.ラジオグラフィック研究棟竣工
- 1976年 慶應義塾創立125年記念式典
- 1977年 海外医科大学での学生臨床実習開始
- 1978年 慶應義塾創立150年記念式典
- 1979年 東日本大震災 慶應義塾救護医療団派遣
- 1980年 医療系3学部（医歯薬）による合同教育開始
- 1981年 総合医療情報システム（電子カルテ）導入
- 1982年 3号館（南棟）竣工 予防医療センター開設
- 1983年 1号館（新病院棟）1期棟竣工
- 1984年 臨牀研究棟竣工

1986-

未来への継承

- 1986年 大学病院新棟（現2号館）竣工（1987年開院）
- 1988年 看護短期大学開設
- 1990年 第1回自主学習成果発表会
- 1994年 特定機能病院として認定
- 1996年 大学院医学研究科（修士課程）設置
- 1997年 医学部新教育研究棟竣工
- 1998年 坂口光洋記念慶應義塾医学振興基金による第1回慶應医学賞授賞式および記念講演会開催
- 1999年 看護医療学部開設
- 2000年 総合医科学研究棟竣工、リサーチナック発足
- 2001年 クリカカリサーチセンター発足
- 2002年 「信濃町キャンパス改革、刷新プロジェクト」設置（2008年3月）
- 2003年 慶應義塾創立150年記念式典
- 2004年 共立薬科大学との合併により、薬学部・薬学研究科開設
- 2005年 臨牀研究棟竣工
- 2006年 3号館（北棟）竣工
- 2007年 東日本大震災 慶應義塾救護医療団派遣
- 2008年 医療系3学部（医歯薬）による合同教育開始
- 2009年 総合医療情報システム（電子カルテ）導入
- 2010年 3号館（南棟）竣工 予防医療センター開設
- 2011年 1号館（新病院棟）2期棟竣工
- 2012年 医学部開設100年
- 2013年 記念シンポジウム「記念式典・記念祝賀会開催
- 2014年 病院機能評価の認定取得
- 2015年 J S R 慶應義塾大学医学化学イノベーションセンター開設
- 2016年 1号館（新病院棟）2期棟竣工
- 2017年 慶應看護100年
- 2018年 医学教育分野別評価の認定取得
- 2019年 病院グランドオープン
- 2020年 令和2年
- 2022年

※写真の説明は裏表紙をご覧ください。

1号館（新病院棟）は、地上11階、地下2階建て、798病床を有する。診療科の垣根を超えたクラスター診療の実施、25室を超える手術室の設置、救急から手術室、集中治療室（ICU・HCU）や産科病棟への直通エレベーターによる緊急搬送ネットワークの確保など、患者さんに安心・安全で最適な医療を提供する。

慶應義塾創立150年記念事業として開設された3号館（南棟）は、「早期発見・早期治療・包括的な先進医療の提供と予防医学の実践」の場として、病棟（58病棟）、無痛センター、免疫細胞治療センター、「人間ドック」のエリアなどを設置。

世界トップレベルの医学部・病院であり続けるために、「信濃町キャンパス改革・刷新プロジェクト」において、病棟経営改革における課題46テーマについて多数の教職員が参加し改革・改善活動を推進。この結果、婦属収支増進化、無給解雇、大学院奨学金創設などを実現。

慶應義塾創立125年記念事業として開設した大学病院新棟（現2号館）は、地上11階、地下2階、コンピュータを利用した先進の医療情報システム稼働、871病床から1071病床に増床。

慶應義塾創立100年記念事業の一環として、基礎医学第1校舎（1956年竣工）、基礎医学第三校舎（東校舎）（1957年竣工）を建設。

「王」の字型に鉄筋コンクリート造りの病棟が並ぶ長期復興計画の下、1950年には号病棟、1952年には号病棟（現の号）、1953年には号病棟（現の号）、1954年に特別病棟（現7号）竣工。

CPC（臨床・病理症例検討会）は、臨床各科の担当医と病理検査の医が合同で行う教育方法。わが国でもっとも早期に導入された。

診療は別館を中心に、継続、日吉キャンパス施設はアノカに接収され、医学部予科は川崎市東生田に移転。（1949年秋）

焼夷弾の集中攻撃を受けるも、開の中を看護、医局員、学生、迅速な誘導により、二百余人の入院患者全員無事救出。学生は、山形三田会長の尽力により山形大八田に疎開し、講義を続行。各教室の図書、蔵書、書籍等の多くは既に疎開し、無事で、戦後いち早く教育を再開。

特殊薬化学研究所は、医薬品の創製と研究を目的とし設立。平成8（1996）年廃止し、先端医学研究所へ吸収合併。

昭和6（1931）年6月13日、北里柴三郎博士逝去。ご遺徳を顕彰し、同志、門下生の募金により北里記念図書館建設。

人口および食糧問題解決とともに患者の食事療法の研究を目的として財界人の厚意により設立された食養研究所建物には、臨床細菌等の研究室併設し、臨床各科と基礎医学等の共同研究を推進。昭和8（1933）年には医学部食養研究所の研究成果実践の場として大学病院に病棟食養部が設置され、日本初の病院給食へつながる。

木造2階建、196病室、約400病床の大学病院は、本邦随一の評判があった。内科、外科、整形外科、小児科、産婦人科、眼科、皮膚泌尿科、耳鼻咽喉科、神経科、理学的診療科、産科の各診療科は、各科の連絡よくして総合的な研究が行われた。各科診察室は「1」「2」「3」「4」「5」「6」「7」の各病棟に設置。

大正5（1916）年、理科系学科の開設を検討し、医学科の設置を決定。「医学科化学科設立趣意書」を発表し、同年12月、文部省から医学科設置認可を得る。「余は福澤先生の門下生ではないが、先生の恩顧をこころうことは門下生以上である」という北里柴三郎博士が初代の医学部長・病院長として尽力。

福澤先生は、ドイツより帰国後不遇であった北里柴三郎博士を援け、伝染病研究所を設立。翌年、芝白金の土地を提供し、日本初の結核療養所、土筆ヶ岡養生園（北里研究所病院前身）を建設。大正4（1914）年、伝染病研究所の文部省移管し、北里博士が初代、所員一同は総辞職し、北里研究所を設立。

松山棟庵を校長とする医学所は、英米医学を教授し、7年の間に約300人の医師を輩出した。

パリ、ロンドン、ベルリン等各地で、病院、福祉施設等も精力的に視察する。

適塾では、生理学、医学、物理学、化学等の原書を読む。

 金井 隆典 R3.8.1 ~	 天谷 雅行 H29.10.1 ~ R3.7.31	 岡野 栄之 H.27.4.1 ~ H.29.9.30	 末松 誠 H.19.10.1 ~ H.27.3.31	 池田康夫 H.17.10.1 ~ H.19.9.30	 北島 政樹 H.13.7.10 ~ H.17.9.30	 猿田 亨男 H.7.10.1 ~ H.13.7.9	 細田 泰弘 H.3.10.1 ~ H.7.9.30	 安田 健次郎 H.1.10.1 ~ H.3.9.30	 植村 恭夫 S.58.10.1 ~ H.1.9.30	 倉田 正一 S.56.10.1 ~ S.58.9.30	 浅見 敬三 S.52.10.1 ~ S.56.9.30	 鳴井 和世 S.50.10.1 ~ S.52.9.30	 三辺 謙 S.46.10.1 ~ S.50.9.30	 塚田 裕三 S.45.6.24 ~ S.46.9.30	 富田 恒男 S.44.12.1 ~ S.45.6.23	 牛場 大蔵 S.40.10.1 ~ S.44.11.30	 松林 久吉 S.36.10.1 ~ S.40.9.30	 植村 操 S.34.10.1 ~ S.36.9.30	 草間 良男 S.30.10.1 ~ S.34.9.30	 阿部 勝馬 S.21.4.1 ~ S.21.9.30	 西野 忠次郎 S.19.4.1 ~ S.21.3.31	 北島 多一 S.3.4.1 ~ S.19.3.31	 北里 柴三郎 T.6.4 ~ S.3.3.31								
 松本 守雄 R3.9.1 (代行：R3.5.28 ~ R3.8.31)	 北川 雄光 H29.8.1 ~ R3.5.27	 竹内 勤 H.25.10.1 ~ H.29.7.31	 武田 純三 H.21.8.1 ~ H.25.9.30	 戸山 芳昭 H.19.10.1 ~ H.21.7.31	 相川 直樹 H.15.10.1 ~ H.19.9.30	 村井 勝 H.13.10.1 ~ H.15.9.30	 北島 政樹 H.11.10.1 ~ H.13.9.30	 神崎 仁 H.7.10.1 ~ H.11.9.30	 矢野 裕 H.3.10.1 ~ H.7.9.30	 小佐野 満 H.1.10.1 ~ H.3.9.30	 保崎 秀夫 S.56.10.1 ~ H.1.9.30	 栗原 操寿 S.52.10.1 ~ S.56.9.30	 旗野 倫 S.50.10.1 ~ S.52.9.30	 市橋 保雄 S.46.10.1 ~ S.50.9.30	 野嶽 幸雄 S.45.6.26 ~ S.46.9.30	 三辺 謙 S.44.11.1 ~ S.45.6.25	 赤倉 一郎 S.42.11.1 ~ S.44.10.31	 相沢 豊三 S.40.10.1 ~ S.42.10.31	 三方 一沢 S.38.10.14 ~ S.40.9.30	 松林 久吉 S.38.10.1 ~ S.38.10.13	 石田 二郎 S.36.10.16 ~ S.38.9.30	 岩原 寅猪 S.35.7.5 ~ S.36.10.15	 植村 操 S.32.10.1 ~ S.35.7.4	 田村 一 S.30.12.5 ~ S.32.9.30	 草間 良男 S.30.10.3 ~ S.30.12.4	 田村 一 S.29.2.1 ~ S.30.10.2	 阿部 勝馬 S.28.11.1 ~ S.29.1.31	 大森 憲大 S.21.4.1 ~ S.28.10.31	 西野 忠次郎 S.19.7.1 ~ S.21.3.31	 北島 多一 S.3.5.1 ~ S.19.6.30	 北里 柴三郎 T.9.11 ~ S.3.4.30